

【議事】 計2

(1) これまでの我が国の宇宙開発政策の総括について

文科省の池原光洋参事官（宇宙航空政策担当）が資料 2-1-1（これまでのJAXAの取組）、2-1-2（これまでの我が国の宇宙開発政策の総括）、参考資料 2（宇宙開発の効果）¹を 40 分ほどかけて説明した後、下記のような質疑応答があった。

澤岡：社会の支持が無いと言うが（理解不足ではなく）曖昧なことが原因である。政策がそうさせている。重点 4 分野以外は予算削減が起こっている。

茂原：日本の宇宙開発は技術開発である。システムで考えるという点で突込みが不十分である。①のテーマで、予算減であったというのは買ってくれなかったということ。ビジネスモデルが悪かったということである。システム化というのはアウトプットを極大化することである。②のテーマでは、保守的技術を採用するという選択肢も存在していた。③のテーマ、官民協力はもっと手前で失敗していると思う。主体者がシステムとして考え直さなければならない。（宇宙研に関する言及があったが、聞き取れなかった）

¹ 宇宙予算が減少傾向を続けている。それは国民の理解が得られていないことが原因で、宇宙開発の効果を訴えることで打開したいと考えているようである。「宇宙開発に使われる技術は、国家の存亡に直接かかわるもので、簡単に技術導入ができないため、国全体の経済基盤を崩さない範囲で長期的見地を以って取り組むべきもの。」とは考えていないようである。

小池：（最初の部分は理解できずにメモできなかった）次に、平成になった頃は地球観測の上昇期にあり、過剰期待があったということを考慮すべきである。また、チャレンジと保守のバランスが大切である。

棚次：不具合が多い原因は技術チャレンジばかりとは言えない。計画が曖昧なままで、突き進むことも原因である。H-I では失敗が無い。予備的な開発にお金をかけ、しっかり評価してから進めることが大事である。官民協力については、間のお金と民の管理を以って協力するのが良い。

井口：②のテーマについて、こういう見方もあるが、ディフェンスという言葉を入れなかったことも重要である。米国の例を見ても、多くの基盤技術はディフェンスが担っている。③のテーマについて、民に任せる部分は多いが、部品のレベルである。宇宙はピラミッドを形成しており、その中で政府の役割がある。

野本：10 年ほど前、国民の理解を増進させるための施策を議論し、報告書を作ったが、何もなっていない。どう実現させるかを考えなければ、実現させられる訳が無い。

青江：H-II A6 号機の失敗のあと、総点検が行われ、プルーブンの物を使うことになった。直ってはいると思う。

有馬：直ってはいると思うが、システムをまとめるのと、ブレークスルーで切り開くのは違うものである。

松尾：宇宙開発委員会の責任を、余り綺麗にまとめると、本質がわからなくなることを指摘したい。その反映が行き過ぎたと考える。